

科目名 (英語表記)	建築計画学 (Study on Architectural Planning and Design)						ポートフォリオ
学年・学科	1年・建築学専攻	単位・期間	選択2単位・前期週2時間(合計30時間) (自己学習時間60時間)			<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員	杉本弘文	連絡先	建築学科棟2階 第1研究室	オフィス アワー	月曜日 16:20~	【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。	
【授業目的】			本講義は建築計画学の対象となる研究領域の研究の背景(歴史的経緯)及び研究の目的と方法を、関連する研究論文を用いて理解すると共に、良好な建築空間・都市空間を如何にして計画・デザインするかを学習する。			【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。	
【履修上の注意】			1) 紹介する研究事例がどのような問題意識でスタートし、その問題を解くためにどのような方法・プロセスで調査・分析されたかを理解し、かつ、それらが果たして有効であったかを考察することで、一連の研究の流れを学習すると共に、研究に必要な思考力を養う機会とすること。 2) 本講義の評価は適宜行うレポートにより行う。			【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。	
【事前に行う準備学習や自己学習】(自己学習時間:60時間)			1) 講義内で紹介する計画・設計手法をより深く理解するために、自己学習として、座学のみならず受講者自らが建築・都市空間を体験したり、多くの設計事例を考察すること。 2) 教材として使用する日本建築学会等の各論文はページ数が多く内容の密度も高いため、割り当てた授業時間内では読み切れず、説明仕切れない。要点を説明していくので、授業時間外の事前及び事後の自己学習により、各自が理解を深めること。			【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。	
【達成目標】			1) 建築計画学の目的、対象領域、研究の方法の概略を説明できる。 2) 基本的な建築計画分野の研究事例を知っている。 3) 建築計画分野の既往研究論文を自分で読み、理解できる。 4) 典型的な研究の方法(研究の流れ)を理解し、学術論文や研究報告の執筆ができる。			ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。	
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)	ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。			
評価到達目標項目1	建築計画分野の調査研究について理解し、適切な調査対象の選定と独自の調査・分析方法が提案できる。	建築計画分野の調査研究について理解し、調査対象にあった調査・分析方法が提案できる。	建築計画の対象領域を理解し、調査研究対象の選定ができる。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目2	既往研究の内容を深く理解し、新規性・萌芽性等のある論文の執筆ができる。	研究対象分野の既往研究を理解し、その研究の独自性や課題について説明できる。	研究対象分野の既往研究を概ね理解している。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目3	既往の建築計画・都市計画分野の研究内容や研究成果について十分に理解し、自身の設計提案に応用できる。	既往の建築計画・都市計画分野の研究内容や研究成果について理解し、建築物の実例の説明ができる。	各種施設の基本的な建築計画・設計の要点について理解し、ある程度建築図面を説明できる。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目4				【自己評価】 A ・ B ・ C			
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
指標と評価割合			80	20			100
知識の基本的な理解			30	10			40
思考・推論・創造への適応力			30	10			40
汎用的技能			10				10
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習経験と創造的思考力			10				10
成績の評価方法について 適宜行うレポート及び課題発表によって評価する。 成績計算方法: 各課題の評価点の合計/課題数							
評価基準について ・総合成績60点以上を合格とする。							
【教科書】 なし							
【参考資料】 日本建築学会計画系論文集、まちづくりの教科書シリーズ(日本建築学会編【まちづくりの方法】、ISBN:978-4621085912他)、建築系学生のための卒業論文の書き方(井上書院、ISBN:978-4753010561)							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B) (d) (e)			

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)	
授 業 要 目	内 容	時 間		
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1		
(1) 建築計画・設計分野における調査・研究の方法	建築計画学の概要と対象領域 研究計画の立て方、調査研究の進め方 データ分析の方法 論文の構成と執筆方法	1 2 2 2	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)	
(2) 住居関連研究例	独立住宅に関する既往研究事例 集合住宅に関する既往研究事例 コーポラティブハウジングに関する既往研究事例 環境共生住宅に関する既往研究事例	2 2 2 2		
(3) 福祉施設関連研究例	認知症高齢者・知的障害者のグループホームに関する既往研究事例 健常高齢者のグループリビングに関する既往研究事例	2 2		
(4) 都市設計関連研究例	まちづくりとは何か まちづくりに関わる調査・研究の方法 コモンスペース(中間領域)に関わる既往研究事例 街並み調査に関わる既往研究事例	2 2 2 2		
(5) 調査研究から設計・計画への展開	すまいづくり・まちづくりに関する設計競技作品事例	2		
		合計時間		30
				【総合達成度】 総合評価の点数()
【備考】				【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)